

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	政策研究大学院大学
整理番号	A-I-4
事 業 名	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p> 本事業は、日本の大学教育全般において国際的に遅れているミッドキャリアの大学院教育の分野においての取組がなされている。交流プログラムの枠組みについては、政策研究大学院大学の学生の多くが政府機関から出向しているミッドキャリア職員で長期の派遣に制約が多いため、各種の短期研修プログラムが設定されており、短期でのプログラムを工夫したことにより量的には成果を残した。 </p> <p> 一方で質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組みについては、短期のプログラムに注力してプログラム開発が進んだが、多くの交流は単位取得を伴わないものになっている。修士課程の学生向けのキャンパス・アジア型共同プログラムの開発においては、ジョイントディグリーの可能性を検討できたのではないかと。しかしながら、質の保証について相当の努力は認められ、質保証について厳格に臨んだ結果とも理解できる。 </p> <p> 外国人学生の受入のための環境整備については、もともと6割が外国人学生なので、十分に受入体制が整っていた。日本人学生の派遣についても、長期の派遣は想定されておらず短期派遣が中心であるため、基本的には既存の仕組みを適用することで対応が可能であった。 </p> <p> 事業の実施に伴う情報の公開、成果の普及については、十分に情報発信をしており、新入生への案内を含め努力の跡がうかがえる。 </p> <p> 目標の達成状況については、予定を変更した短期のプログラム中心の交流ではあるが、期間の制約が厳しい学生を受け入れやすくしたプログラムの作成により、交流人数の目標値を大幅に上回る実績を残した点は評価できる。しかしながら、日本人学生の語学力については、派遣前の選考により一定の水準は担保されていることがうかがえるものの、本事業の具体的な成果とするには、客観的なデータの把握と検証が必要であったと言える。 </p> <p> 今後の展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献については、海外の学生に修士号を授与する仕組みは既に確立されており、今後もその点では問題はなく、現在の水準の維持は十分にできると期待できる。しかしながら、日本の学生を海外に派遣して適切な期間と正規のカリキュラムの履修を担保する交流計画は難しいこともあり、今後のグローバル展開力の強化のモデルとなるためには、一層の検討が必要である。 </p>